

東建パブリニユース

2019年8月9日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

2019年8月8日 中部経済新聞 P.16

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。



日本刀の知識を深め、その魅力にはまっている

そもそも博物館は左右田社長が40年以

「日本刀の魅力は、姿（形）、地金、波紋の3点と言われる」と見どころを分かりやすく解説する。形で作られた時代が分かり、地金の鉄でどこで作られたか、そして波紋で誰が作ったかが分かるという。

東京大学工学部出身の藤波さんは入社後、研修を終えて最初に就いたのが新規事業として取り組むことが決まっていた博物館担当。日本刀について門外漢だったが、博物館に出かけて行って専門家に話を聞いたり、関係する書籍で勉強を重ねた。3年が経過し、今では社内で「刀担当」と呼ばれるほどになった。

東建コーポレーション（本社名古屋市中区栄）は来年6月、名古屋市中区栄に刀剣博物館「名古屋刀剣ワールド」をオープンする。展示する日本刀や甲冑（かっちゅう）の収集や展示などの準備を担当しているのが社長室・Web企画室主席課長の藤波誠洋さん（25）だ。

ふじなみのぶひろ
藤波 誠洋さん

東建コーポレーション
社長室・Web企画室主席課長

奮闘の日々
20代のフレッシュパーソン

[14]

上にわたって収集してきた日本刀や甲冑を多くの方に見てもらいたいという思いから事業がスタートした。博物館には日本刀を最大200振り、甲冑50領などを展示する。既に日本刀に関する情報をまとめたウェブサイトを「刀剣ワールド」を公開し、その魅力を発信している。

オープンまで1年を切り、大詰めを迎えている。「ただ刀を並べるのではなく、どのように見せるのか展示方法にも工夫していきたい」という。時代ごとに展示する場所を区切ったり、デジタル技術を活用し、刀ができるまでを紹介するシアターも設ける予定だ。

現在、刀は約370振りを収集した。最近、国宝「有楽来国光（うらくらいくにみつ）」を入手した。鎌倉時代末期の短刀で、織田信長の弟・織田有楽斎が豊臣秀頼から拝領したという。

「一つ一つの刀は工芸品として美しい。見ていると1振り欲しくなるが、最低でも100万円以上するから」と断念している。ただ、「会社員人生のなかで新しい博物館を立ち上げることは、そうそう経験できることではない」と充実した日々を過ごしている。

以上